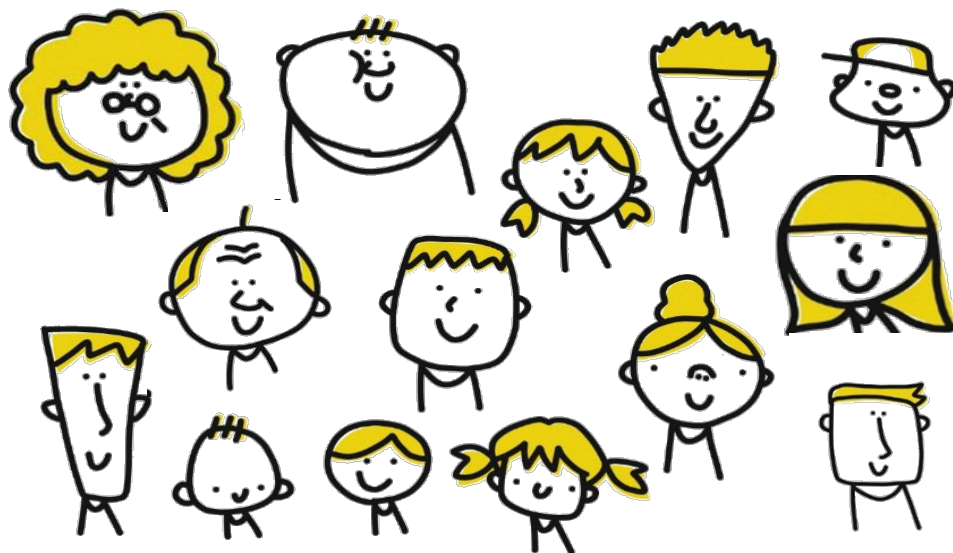


日進市

男女平等に関する市民意識調査結果報告書

<概要版>



● 調査目的

本調査は、男女平等の推進に関して、市内にお住まいの皆様の意識や実態を把握し、令和2（2020）年度に策定する第3次日進市男女平等推進プランに反映させるための基礎資料とする目的で実施しました。

● 調査対象

- ・ 令和元（2019）年10月現在、日進市に居住している満20歳以上の男女各1,250人
- ・ 無作為抽出により対象者を決定

● 調査期間

令和元年10月24日（木）～令和元年11月18日（月）

● 調査方法

- ・ 調査票による本人記入方式
- ・ 郵送配布・郵送回収による郵送調査方法

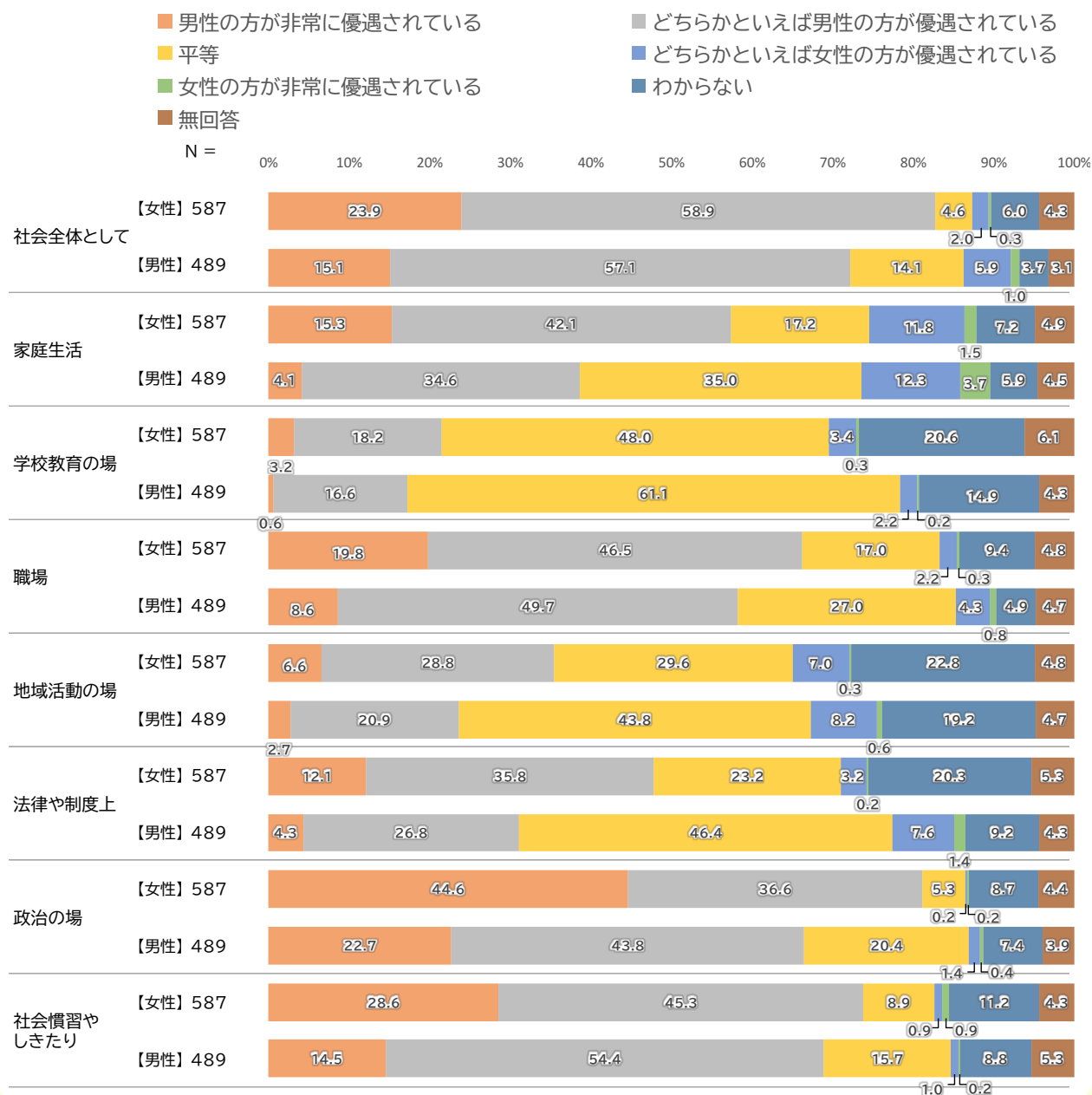
● 回収結果

1,098通（有効回収率43.9%）

※回答は各質問の回答者数（N）を基準とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

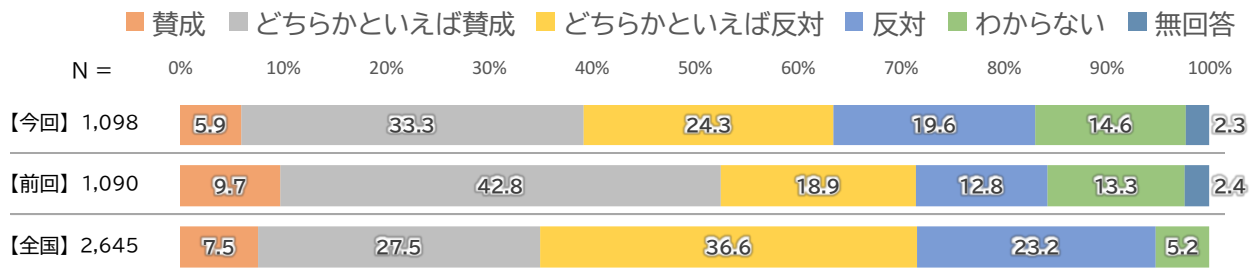
さまざまな分野における男女の地位について

- 「社会全体として」は、女性の8割以上、男性の7割以上が、『男性が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と考えています。
- 女性の方が男性より、すべての分野で、「平等」と考える割合が低く、反対に『男性が優遇されている』と感じている割合が高いことから、男女の意識差がうかがえます。



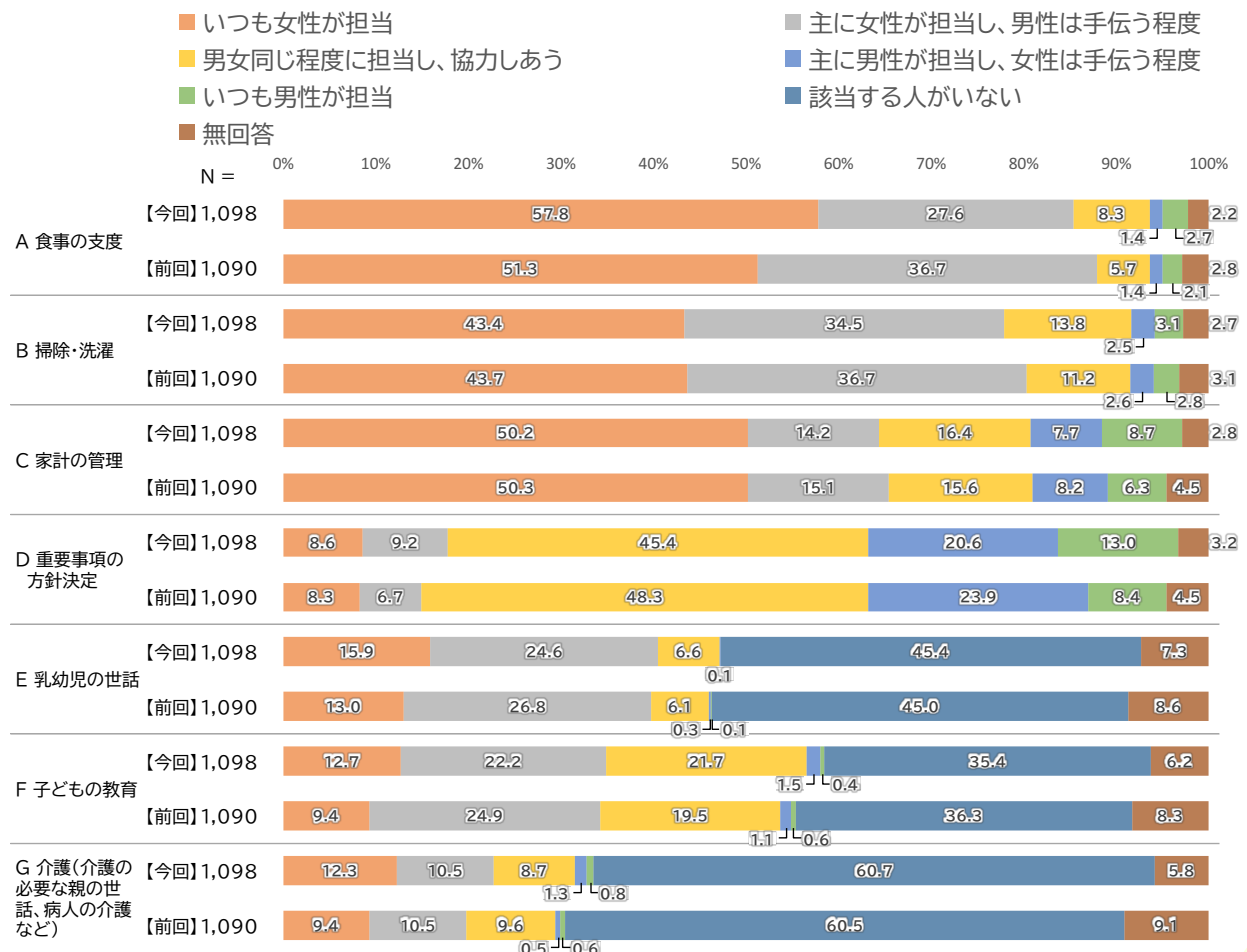
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだという考え方について

- 前回と比較すると、『反対』（「どちらかといえば反対」+「反対」）が 12.2 ポイント増加し、『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）を上回りました。
- 全国調査と比較すると、『反対』の割合が 15.9 ポイント少なく、固定的な考え方が残っていると考えられます。



家庭における役割分担について

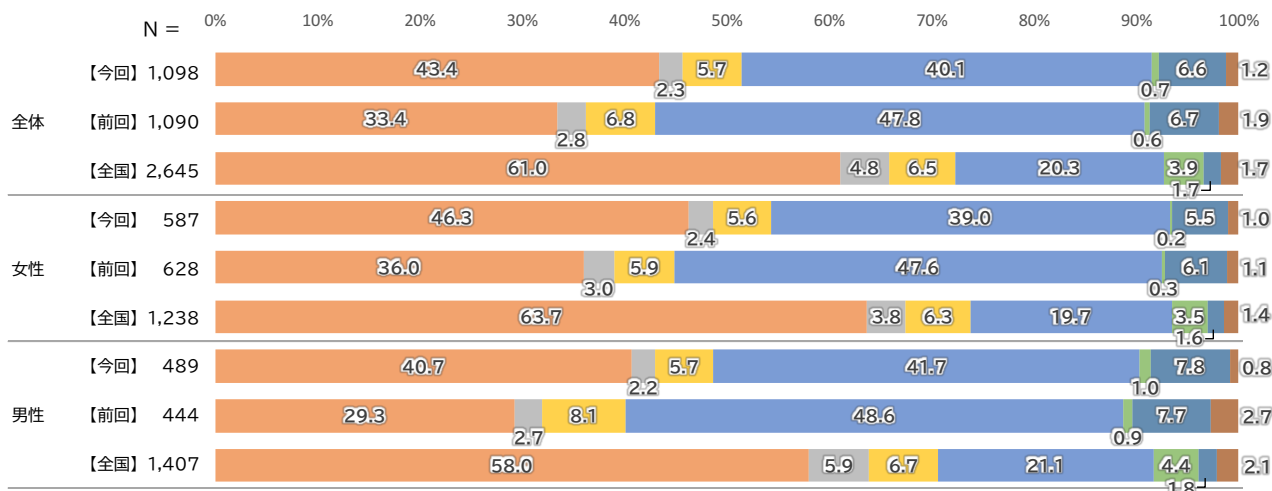
- 「重要事項の方針決定」は「男女同じ程度に担当し、協力しあう」が最も高いですが、それ以外のすべての項目で『主に女性』（「いつも女性が担当」+「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」）が担当する割合が高くなっています。



女性が就業することについて

- 前回と比較すると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」が増加しており、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」と順位が逆転しました。
- 全国調査と比較すると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が約17ポイント低く、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」の割合が約20ポイント高くなっており、全国的な考え方とは差があります。

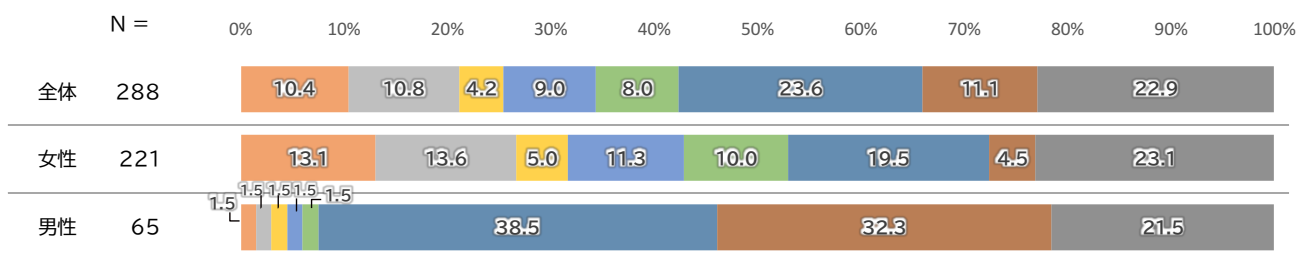
- 結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい
- 結婚するまでは就業するのがよい
- 子どもができるまでは、就業するのがよい
- 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい
- 就業しない方がよい
- その他
- わからない・無回答



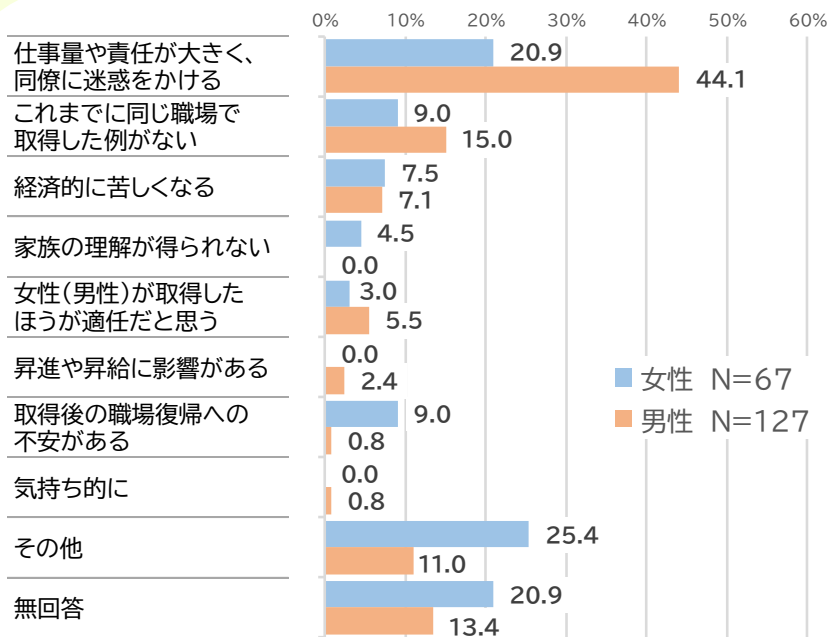
働き続けたかったのに働くことができなかった理由

- 女性は、「健康上の問題」「育児で預けられる施設やサービスが不十分だった」「就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった」「家族の介護や看護の必要があった」「結婚や育児に対する会社の理解や制度が不足していた」など、男性に比べて回答が分散しており、女性が働き続けるためには多くのハードルがあることがうかがえます。

- 就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった
- 育児で預けられる施設(託児所や保育園)やサービスが不十分だった
- 育児で配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった
- 家族の介護や看護の必要があった
- 結婚や育児に対する会社の理解や制度が不足していた
- 健康上の問題
- リストラ・定年
- その他



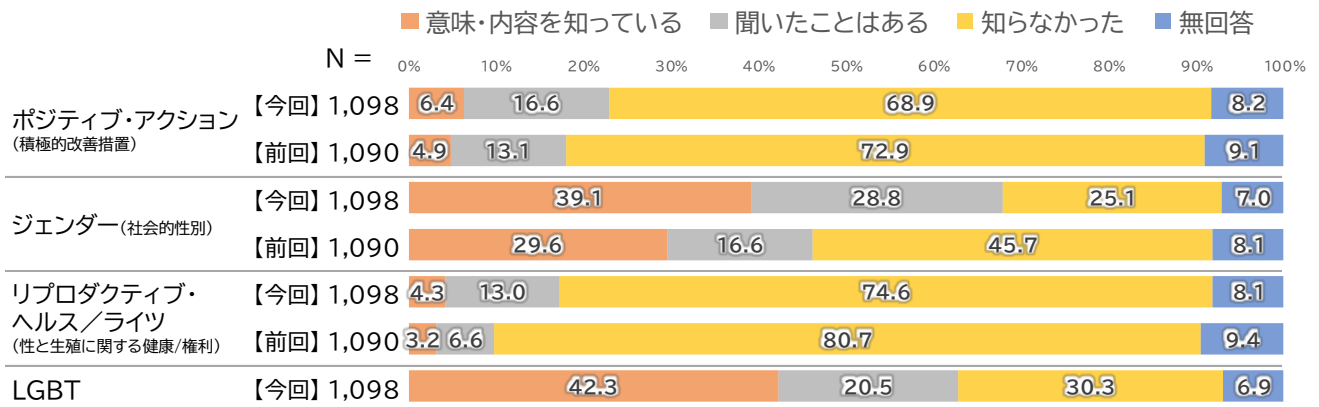
育児・介護関連休暇を利用しなかった理由



- 女性は、男性と比較して、「取得後の職場復帰への不安がある」の割合が高くなっています。
- 男性は、女性と比較して、「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」、「これまでに同じ職場で取得した例がない」の割合が高くなっています。

男女共同参画に関する言葉の認知度

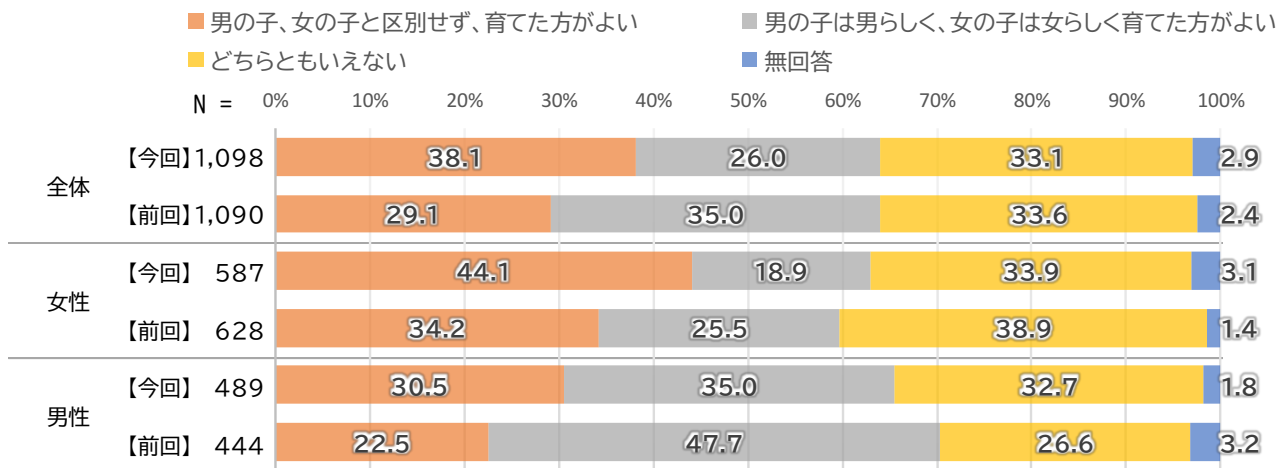
- 前回と比較すると、「ジェンダー(社会的性別)」について「意味・内容を知っている」人の割合が増加しています。



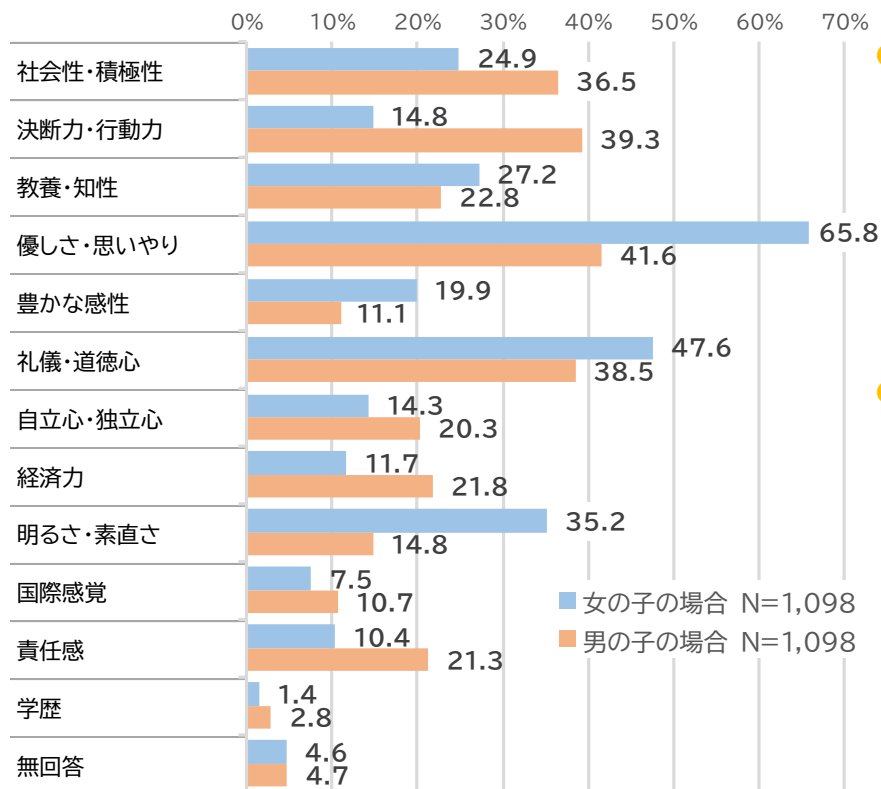
- **ポジティブ・アクション(積極的改善措置)**:様々な分野において、活動に参画する機会の男女間の格差を改善するため、個々の状況に応じ必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものです。
- **ジェンダー(gender)**:「社会的・文化的に形成された性別」のことです。生物学的性別(セックス/sex)と区別されます。
- **リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)**:1994年「国際人口開発会議」で、「女性の健康」という視点から、月経、避妊、中絶、婦人科の疾患、出産など、女性の性と生殖にかかわるすべてをとりえ直す概念として提唱されました。
- **LGBT**:LGBTはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字で、性の多様性を表す言葉のひとつです。セクシャル・マイノリティ(性的少数者)と同じような意味として使われることも多いです。

子どもの育て方について

- 前回と比較すると、全体・女性・男性とも「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と考える人が増加しています。
- 男性は「どちらともいえない」と回答した人が増加しています。



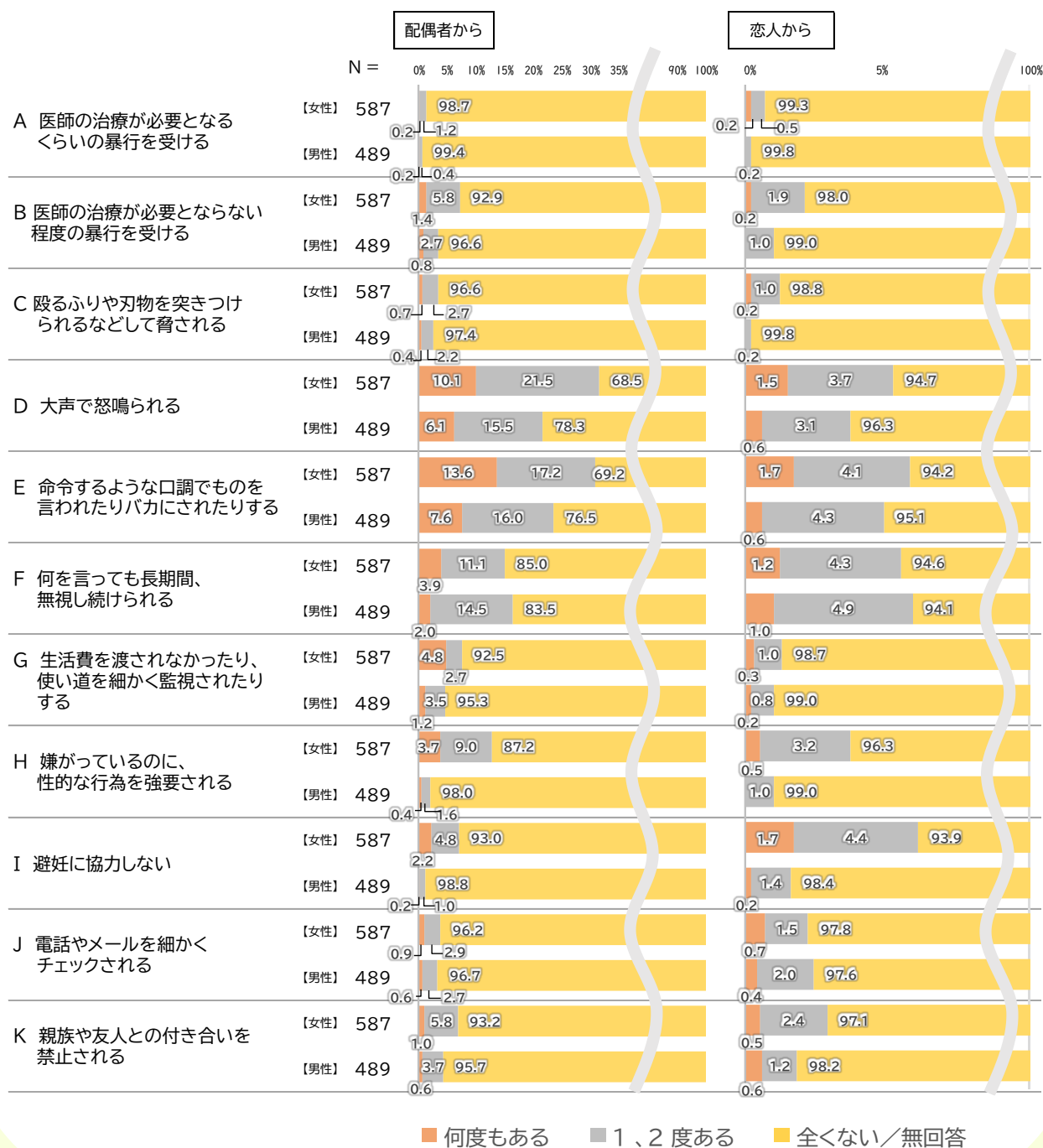
子どもに身につけてほしいと思うこと



- 女の子の場合では、男の子の場合に比べて、「優しさ・思いやり」「明るさ・素直さ」への期待が高く、特に「優しさ・思いやり」は6割台半ばと高くなっています。
- 男の子の場合では、女の子の場合に比べて、「決断力・行動力」への期待が高くなっています。

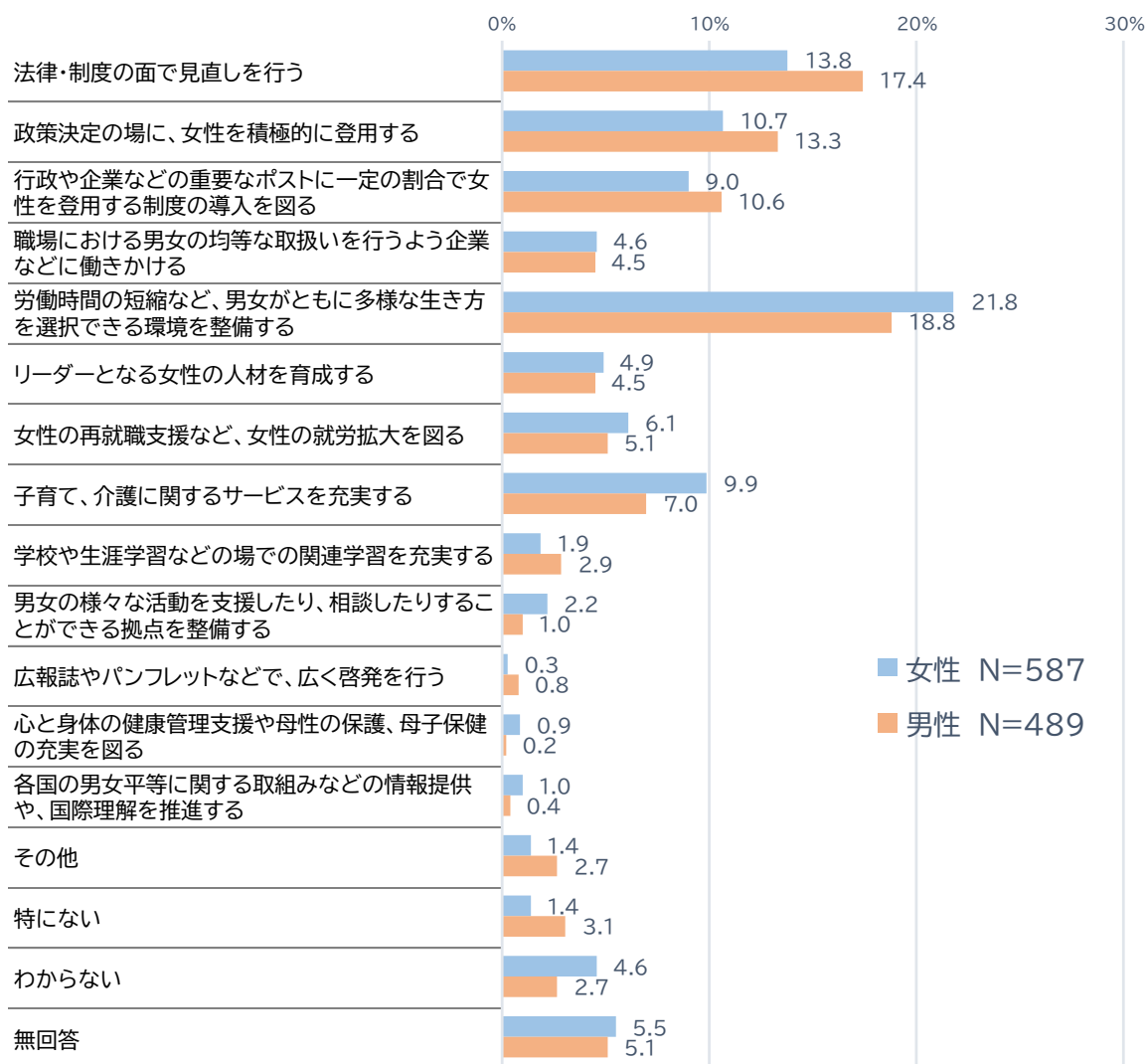
ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害状況

- 被害状況としては「大声で怒鳴られる」「命令するような口調でものを言われたりバカにされたりする」「無視される」など精神的暴力の割合が高くなっています。
- 身体的暴力の被害もあります。
- 女性の方が男性より被害割合が高く、「性的な行為の強要」や「避妊に協力しない」などの性的暴力は、特に女性の被害割合が高くなっています。



男女平等な社会を実現するために行政が力を入れること

- 男女ともに「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」が最も高くなっています。
- 次いで、「法律・制度の面で見直しを行う」「政策決定の場に、女性を積極的に登用する」「子育て、介護に関するサービスを充実する」などが求められています。



男女平等に関する市民意識調査結果報告書<概要版>

令和2(2020)年3月

発行:日進市 市民協働課

〒470-0192 日進市蟹甲町池下268番地

電話:0561-73-3194(ダイヤルイン)

FAX:0561-72-4603